

総合特別区域評価・調査検討会における評価結果の概要(令和3年度)

2. 分野別状況(2)地域活性化総合特区②ライフ分野

	総合評価 (ⅠとⅡとⅢを1:1:2の割合で計算)	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	総合評価に係る専門家所見(主なもの)
		目標に向けた取組の進捗	支援措置の活用と地域独自の取組の状況	取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決	
東九州メディカルバレー構想特区 (大分県、宮崎県)	4.2	<p>4.2</p> <p>進捗度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療関連機器の市場化件数 200% ・新規医療機器製造登録事業所・製造販売許可業者数 110% ・新規輸出する医療関連機器を製造する企業 33% ・新規海外医療技術人材育成数 487% 	<p>4.3</p> <p>規制の特例等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・非治験臨床性能評価制度適用の拡大 <p>財政支援等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療関連機器産業参入促進事業 <p>地域独自の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大分県医療機器産業参入加速化事業 <p>・宮崎県産学官共同研究開発補助金 等</p>	4.2	<ul style="list-style-type: none"> ・産学官連携が根付くことにより医療関連機器の市場化件数が順調に伸びていることは評価できる。 ・特区の財政支援が継続的に積極的に活用されていることが、目標達成に向けた成果に着実に繋がっていることがうかがえ評価できる。 ・医療機器の輸出企業数が伸びていないことについて、当事業で育成された医療技術人材を活用することも可能ではないか。 ・コロナ禍への対応において、オンラインでの対応によって、研修事業を継続するなかで、養成者数を大幅に増加させた点は評価できる。2つの県からの支援環境も継続されており、改善が想定されている中小企業の育成の成果に期待したい。 ・コロナ禍にも関わらず海外での人材育成事業の発展が著しく評価したい。輸出用医療関連機器の製造を行う企業については海外のコロナ対応の影響もあり時間がかかると思われる。 ・人材育成において、育成人数としては十分な成果が成果が得られているが、質的評価に関する具体的な内容を共有いただきたい。